

# 沿岸に綿花咲かそう

## 荒浜でプロジエクト始動

美里と仙台  
の農家連携

東日本大震災の津波で瓦礫だらけになった仙台市若林区荒浜の田んぼで綿花を栽培するプロジエクトが11日、始動した。荒浜地区でコメを作っていた美里町二郷の赤坂芳則さん(60)が代表となつて「仙台東部地域綿花生産組合」を設立。今年は80%で試験栽培し、紡績会社などとタイアップして商品を開発、復興のシンボルとして売出す。いずれは荒浜一面に綿花を咲かせたい考えで、関係者は「塩まみれになった浜辺の活性化につながる希望の花にしたい」と意気込んでいる。

### 独自商品で復興のシンボルに

大正紡績(本社・大正 賛同した。6月上旬に 阪府阪南市)が企画し、 組合を設立。11日に初 荒浜地区の農家5人が めての農作業が行わ

れ、津波で流れ着いた 木の枝や鉄くず、プラ スチック、ビニールな どのごみを一つ一つ拾 い集めたほか、重機で 応急排水路を作った。

18日ごろ種をまき、 10月にも収穫する計 画。大正紡績が全量を買 い取り、協賛するア パレル会社で100% 被災地産の綿製品を開 発する。収益の一部は 地元農家に還元される という。

赤坂さんは荒浜地区 の田んぼと畑計1・3 畝で30年ほど前からコ メや野菜を作ってい た。農地は半月間ほど 海水に漬かって塩まみ

一面砂浜と化した沿岸の田んぼを耕す関係者。周囲にはまだ瓦礫が散在している



れになり、水が引いた 後には大量の瓦礫やガ ラス片が残された。用 排水路も壊滅状態。一 時は耕作を断念した へと動き出した。メン

パー5人のうち2人は 自宅を流され農機具も すべて流失。当面は赤 坂さんが美里町から農 機具を持参する。

綿花は塩害に強く、 土壌の塩分を吸収する 効果があるという。赤 坂さんは「3年間は試 験栽培を重ねてノウハ ウを学ぶ。隣接する耕 作放棄地を借りて、い ずれは東日本最大の綿 花の産地にしたい」と 話していた。

組合は、草取りや追 肥などを手伝うサポー ト会員と、農機具など を購入するためのスポ ンサーを募集してい る。問い合わせは赤坂 さんへ。電話0990(8 259) 46635。